

櫻井 亨¹、菊池 崇^{2,3}、橋本久美子⁴、 利根川 豊¹、梶川陽平¹、坂田圭司¹ 1:東海大学、2:名古屋大学太陽地球環境研究 所、3;情報通信研究機構、4:吉備国際大学



Fig.1A



Fig.1B





Fig. 16

Fig.5A

Power Spectrum of KSM-X & Y 200612142100-2200UT

Power Spectrum of ACE-Pd 200612142030-2130UT

Fig. 10

Cross Power and Coherence between KSM-Y and WAK-X 200612142120-46UT

Fig.14(A)

Cross Power and Coherence between KSM-Y and KMT -X 20061214 2120-46 UT

Fig. 14B

Cross-Power and Coherence between KSM-Y and YAP-X 200612142120-46 UT

Fig. 14C

Power Density at 0.005Hz(3.3min) vs CGM Latitude

Fig. 15

電離層プラズマ運動と地上磁場ULF 波動との関係一まとめ

- 1.磁気嵐中IMFが北向きの時、KSMでのレーダに 周期4-5分、速度200m/sのプラズマ運動が観測 された.
- 2. 同時に地上でほぼ同一周期3-4分のULF波動 が広い緯度範囲で観測された.
- 3. 地上のULF波動のスペクトル解析からオーロラ帯の磁場変動のY成分と赤道帯でのX成分との相関が高いことが示された.
- このことは電離層電流が赤道帯のULF波動の原因 となっている事を示していると考えられる.

ULF波動の励起された原因

 レーダエコーおよび地上磁場変動にPc5帯 ULF波動が観測された原因として太陽風中 の密度変動にほぼ同一周期の変動が起こっ た事が重要と考えられるが、この時IMFが北 向きであったことも磁気圏においてULF波動 が励起され易い状況を作っていたと言う点で 重要であると考える、従って、太陽風中の密 度変動は磁気圏一電離圏のプラズマ運動に ULFの周期帯(3-5分)に於いても重要な役 割をしていると結論出来る.